

事業報告書

令和6年度
「2200年の歴史ある大山詣り阿夫利神社門前町活性化」
調査事業

令和7年2月20日
伊勢原市観光協会
株式会社シェアウイング
株式会社アドレス

1. 事業の背景・概要

■ 事業の背景

400年以上続く大山への信仰を支えてきた参拝者層（講中）は、年々減少し続け、さまざまな告知やPRで誘客に力を注いできたものの、宿泊者数の確保という意味では、なかなか有効な手立てがないのが現状である。これからの観光誘致は既存の参拝者のみならず、新たな層の呼び込みが現状の課題となっている。参拝者をサポートしてきた「先導師」が代々営む講のための宿泊場所である宿坊（先導師旅館）は、新たな時代の需要に合わせ、ターゲット顧客を取り込んでいかなければならない。

また、宿坊施設の老朽化や高齢化による働き手不足は深刻であり、現在の形態のままでの維持が困難である。これまでの宿坊モデルだけに依存せず、新たな宿泊・滞在サービスと連携した施策を検討する必要がある。

■ 事業概要

本事業では、宿泊を伴う顧客の候補として、昨今の観光需要や滞在傾向から「訪日外国人旅行者」と「多拠点生活者」の2ターゲットを新たな誘客対象とする。

二地域・多拠点居住の促進を通じて、地方への人の流れを創出・拡大するための「広域的地域活性化のための基盤整備に関する法律の一部を改正する法律案」が2024年に閣議決定された背景からも、多拠点生活者の拡大・推進は国を挙げた政策になっている。旅行でも定住でもない、地域に関わる「関係人口」増加は地域活性化の新たな糸口になる。大山でも先進的な～大山でも先進的な取り組みとして多拠点生活者の獲得に力を入れていく。

テレワークやワーケーション・週末別荘・移住候補先探しといった目的で、各地を旅しながら滞在する国内の多拠点生活者というこれまでにない新たなターゲットが大山の魅力を伝えることで、再発見にも寄与すると考えている。

また、近年注目されている訪日外国人旅行客層は、一定の経済効果を生むとともに、伝統文化の保全や発信等にも大きく影響があるとされている。対象者による食や文化体験等を通じた情報発信は、大山の魅力を世界に発信し、地域の観光産業の成長に貢献する。

■ 実施体制

実施については、伊勢原市観光協会とともに、株式会社シェアウィング、株式会社アドレスとともに実施する。なお、事業の実施に際しては、自治体である伊勢原市や、地域の先導師旅館組合と連携しながら行った。詳細は事項「事業1」で報告。

■ 全体実施スケジュール

実施した事業1～5に関して、取組の全体スケジュールは右の通り。

実施事項	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
（事業1） 官民連携推進体制の確立	チーム立ち上げ、キックオフ実施	旅館組合本部への事業説明/挨拶		旅館組合本部との意見交換会	市との打合せ（次年度方針など）	各旅館への活用提案、個別相談			地域説明会実施
（事業2） 大山門前町現状調査（アンケート・インタビュー）		アンケート企画設計、質問項目作成（地域の方からのアンケートアドバイスを元に作成）	アンケート印刷、配布、回収、イベント回収	アンケートデータ入力、集計作業	アウトプット作成、整理	インタビュー整理（個票）	アウトプット作成、整理		
（事業3） モニターツアー実施 ※コンテンツ企画開発含む			コンテンツ企画、調査	専門家アドバイザー デスクリサーチの実施	コンテンツ設計開発 デバイス	参加者リクルード	ツアー準備、実施	事後アンケート＆インタビュー	
（事業4） ノマドワーカー調査（アンケート・インタビュー）					アンケート作成、メルマガ作成配信、アンケート配布	アンケート回収、回答内容分析	インタビュー項目検討、インタビュー実施、まとめ		
（事業5） 広告宣伝		媒体検討、テーマ等すり合わせ			ターゲット確認、取材撮影	記事作成、ネイティブチェック	表現内容確認、英語翻訳、発信		

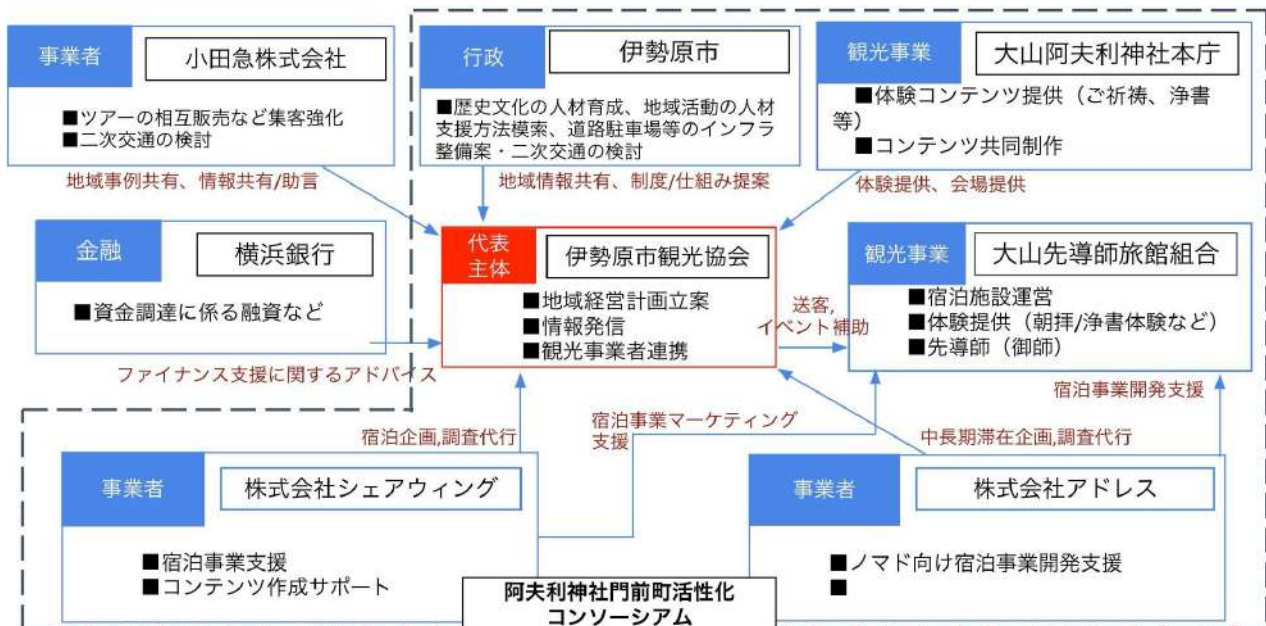
【事業1】官民連携推進体制の確立

■ 連携体制構築

当初から「阿夫利神社門前町活性化コンソーシアム」を結成すべく、大山阿夫利神社本庁と株式会社シェアウィング、株式会社アドレスとともにキックオフを開催し事業を開始する。

事業途中では、大山市先導師旅館組合の本部を通して旅館組合との連携を開始。古民家、空き家の利活用候補となる資産所有者が多い旅館組合の方々に対して、アンケートやインタビューを通じて個別実態を把握していき、個別訪問や利活用提案を実施。次年度以降の連携候補物件に対しては現在交渉中の物件が1件。また、伊勢原市とは事業報告会や意見交換会によって、より具体的な施策について議論しており、今後の活動を協議していくことで連携していく。

■ 体制図(事業終了時点)



■ 伊勢原市(自治体)への報告

開催日時: 2025年2月10日

開催場所: 阿夫利神社下社

参加者: 伊勢原市市役所 平戸氏、阿夫利神社 目黒久仁彦氏、
株式会社シェアウィング 森・山田、株式会社アドレス 今泉

議題: 調査結果を踏まえた地域の現状と課題を共有、今後の地域活性化に向けたアイデアを議論する

議事内容:

1. 調査報告(シェアウィング・アドレス)

2. 調査結果を受けての各参加者の意見

- 街として宿泊を現存させていくのは大事なポイント。一方、仕事を兼業されている方も多いので宿が開けられない日があることも理解する。人手は大きな課題。
- メディア露出が最近多く、通年テレビ取材があるが、受け入れが課題。
- WIFIは一部の部屋で繋がらない状況があり、デジタルノマドを受け入れるためには改善が必要。市の補助金で対応したものはそろそろ期限切れの可能性がある
- 人を送客できれば自動的に動くはず。市役所はそこをサポートしていきたい。
 - 空き家の利活用であれば、店舗出店時に補助金を活用できる
 - 将来の展望と論理的な提案を行うことで市役所で予算化できる可能性もある
 - 日本遺産協議会からの補助での企画も検討できるのでは(日産×柿の種/龍屋物産、伊勢原うまいもの遺産創造委員会)
- 納め太刀はユニークな文化なので、それを活用していきたい

- どの観光地にも絶対に刀のお土産がある。起源は大山という話も。刀は古今東西子どもが欲しがるものである
- 説明がないので、認知されていない
- こまは参道の名前になっているものの、周知できていない現実がある
- 若手のこま職人育成に取り組んでいる(市の職員)
- こまを回す場所、触れられる場所がない
- 背景を説明している場所がない

3. 今後の施策案

- 「納め太刀」の活用
 - 「納め太刀」の販売・奉納のプランは今後の可能性になりうるのでは
 - TVで取り上げられた際に一部で人気になったが、周知まで至らなかった
 - 駅に降りてすぐから、文化を感じる体験をスタートさせたい。バス乗り場のあたりでも納め太刀を販売できると良さそう。
- お土産・カフェの設置
 - 滞在型施設(カフェ・お土産店)の整備で観光客や高齢者の利便性向上を測ることができれば、滞在時間もののび、地域に落ちるお金も増えるのでは。
 - 階段がキツく、途中で登るのを断念して家族を待つ高齢者の方もいる。一息つけるカフェもないので、カフェ兼お土産屋さんがあれば賑わう場所になるはず
 - こま参道であるが、こまについての説明もなく体験もできないので、こまの体験ができる場所などもあると良い
 - 一方近隣のお店への配慮は必要となってくる
 - 空き家活用や日本遺産の文脈で補助金を活用することが可能

■ 連携体制構築の日程別実施内容

日付	参加者	内容	詳細
7/12	市担当,神社, SW,ADD	市との打合せ	伊勢原市商工観光課を訪問し事業説明。大山地域の改善に向けた情報交換を行う
7/17	専門家,市担当,神社, SW,ADD	キックオフ	顔合わせ自己紹介、事業全体の施策と全体スケジュール確認、地域視察 
8/14	旅館組合役員,神社, SW,ADD	挨拶、事業説明	先導師旅館組合本部への挨拶自己紹介、本事業説明のち質疑応答
10/13	専門家,観光庁,神社,事務局,横浜銀行, SW,ADD	専門家✕旅館組合本部との意見交換回	専門家視察、旅館組合との意見交換会を開催。組合の存続使命やインバウンド受入れの必要性を理解されていることも確認でき、その他様々な課題についても議論した。 
11/13	市担当,ADD	打合せ	来年度事業のヒアリングとサービス紹介
11~1月	複数旅館 xSW,ADD	地域連携	各旅館にアポイントを取って利活用の提案を実施

12月	伊勢原市観光商工課, SW	大山地域通 訳案内士の 手配相談	伊勢原市で設置している大山地域通訳案内士制度を使って インバウンドのモニターツアーでの通訳を相談。事前打合せ など実施し、当日の通訳を依頼。
1/14	阿夫利神社, SW,ADD	調査結果報 告と講演の 打診	産業能率大学訪問(阿夫利神社,SW,ADD)本事業の調査結果 と共に大山の地域魅力について講演会の打診
2/10	伊勢原市,阿 夫利神社, SW,ADD	市への事業 および調査 結果報告	市商工観光課担当者に本事業の 報告を行い意見交換を行う。市施 策の説明や補助活用など提案い だく 
2/13	伊勢原市,先 導師旅館組 合,小田急電 鉄,小田急 AG,産業能率 大学,SW,ADD	地域への説 明会/勉強 会	今回の事業概要を改めて報告し、具体的な調査結果、各施 策結果と考察を共有報告。 産業能率大学柴田教授の講演会も併せて実施 最後に参加者全員から様々な視点での感想や意見をもら い、今後の活動の下地作りができた。(詳細は以下)

■ 大山地域全体での事業報告会

■ 実施日:

2025年2月13日(木) 15:00~16:45

■ 開催場所:

阿夫利神社社務所 翠浪閣

■ 目的:

- ・調査事業の結果を共有するとともに、調査で明らかになった実態や課題を共有することで大山地域の関係者に地域への理解を深めてもらう。
- ・併せて、大山地域の魅力や強みを改めて再認識し、地域活性化を盛り上げる。
- ・調査結果から得られる考察に対して、色んな立場から意見をもらい、より良い活動方針を立てるための土台を作る。

■ 実施内容:

- ・観光協会会長挨拶
- ・調査概要の説明
- ・調査結果報告
アンケート、インタビュー
インバウンド
デジタルノマド・多拠点生活者
- ・産業能率大学柴田教授 講演
- ・意見交換会、質疑応答

■ 参加者一覧(順不同)24名

- ・産業能率大学 柴田明彦 教授(ゼミ生2名)
- ・伊勢原市 観光商工課 大瀬俊介氏
- ・伊勢原市 教育総務課 葉山貴史氏

観光庁 令和6年度 歴史的資源を活用した観光まちづくり推進事業採択
大山の未来を考える

2200年の歴史ある大山詣り阿夫利神社門前町活性化
**調査結果ご報告・勉強会
開催のお知らせ**

日時 2025. 2.13 木
時間 15:00~16:30
場所 阿夫利神社社務所 翠浪閣
※追加案内・お申し込みのみです

講師プロフィール 産業能率大学 情報マネジメント学部 柴田 明彦 教授
産業能率大学は、社会と連携し、地域に貢献する大学として、様々な分野で活躍する人材を育成しています。本学では、最新の技術や知識を学び、実践的な力を身につけることができます。

スケジュール

- 15:00-15:30 本事業の概要説明・調査結果のご報告
●本事業の概要説明
●調査結果のご報告
●インバウンド、デジタルノマド等、新緑館直営施設における課題・取り組みについて
- 15:30-16:00 産業能率大学 柴田教授 講演
- 16:00-16:30 質疑応答・ディスカッション
報告会終了後、個別に相談も承ります

主催 一般社団法人伊勢原市観光協会
協力会社 株式会社シェアウィング
株式会社アドレス

お問い合わせ先
伊勢原市観光協会
担当: 山田
チラシ



説明会の様子

- ・伊勢原市 経営企画課 瀬尾氏、田中氏
- ・大山観光電鉄(株) 越尾氏
- ・(株)小田急エージェンシー 地域ビジネス推進部 小松裕長氏
- ・大山先導師旅館組合 内海博文氏
- ・小田急電鉄(株)観光開発事業部 関根玲一氏
- ・TOPPAN(株)岩崎氏、小林氏
- ・横浜銀行 厚木支店 加藤真一氏、木村氏
- ・大山先導師旅館組合本部 根岸氏
- ・小笠原旅館 小笠原氏
- ・かげゆ旅館 内海氏
- ・小宮旅館 小宮氏
- ・つたお旅館 佐藤氏
- ・蓬生亭 逸見氏
- ・伊勢原市観光協会会長 目黒仁氏
- ・大山阿夫利神社 目黒久仁彦氏
- ・伊勢原市観光協会 佐々木氏



説明会の様子

■ 参加者からの意見や感想まとめ

<調査結果について>

大山地域で調査をしたことがなかったとのことで、課題などの実態についてはなんとなくは感覚でわかっていたが実際に目に見える結果として見えたので意義がある等と評価いただく。

<宿泊施設の運営について>

宿泊施設運営者が「現状後継者がいないが、自分たちの代の後に任せられるような人たちや仕組みがあるのであれば、改修し続けていくこともあり得る」という前向きな意見が出た。また市の担当者からは、宿泊施設の6割が新規客を受け入れているという事実を知って驚いたという意見もあり、昔ながらの既存客が多く来ている印象が残っていて、宿側の対応はあまり見えていない事実も判明した。

<大山の地域としての可能性について>

地域としてのポテンシャルがあることがわかった、という意見やいくつもの強みとなるものがあることがわかった、などポジティブな評価がいくつか出てきた反面、大山も他の地域を見習って変化が必要という意見もでた。

宿泊に根付いた地域に対して、市の担当者は、興味深く感じ、いろんな支援を考えていきたいと前向きな意見をもらったので、今後連携の幅を広げながら活動ができる可能性が出てきた。

<インバウンド対応について>

インバウンドの宿泊客が現状少ない状況において、設備や提供食事(食習慣)の不安などあるが、明確な拒絶反応があるということではなく、実績の少なさからくる不安が大きいと思われるので、少しずつスモールスタートで始めていき、試行錯誤しながら受入れを増やしていくことを目的として開始していくを検討していく。

<デジタルノマド・多拠点生活者について>

新しい切り口がたくさんあり、生活観光の切り口という流行りも新しい兆しが期待できるとのこと。いかに地域からプレーヤーが生まれるか、それを地域全体でどう支援していくかがキーポイントになりそうだという意見が出た。

【事業2】大山門前町現状調査(アンケート・インタビュー)

■ アンケート実施概要

調査目的:宿坊運営の実態把握と先導師活動について把握する

調査対象者:大山地域の宿坊運営事業者(42件;先導師旅館30件、先導師のみ12件)

調査手法:各宿坊に主旨説明とともにアンケート用紙配布し、回収

実施時期:2024年9月

回収数:34件(先導師旅館:25件、先導師のみ:9件)

調査項目:

①旅館運営:運営体制、顧客と課題

②先導師:先導師の活動と体験プログラム協力や旅館施設の貸出し意向など

■ アンケート結果

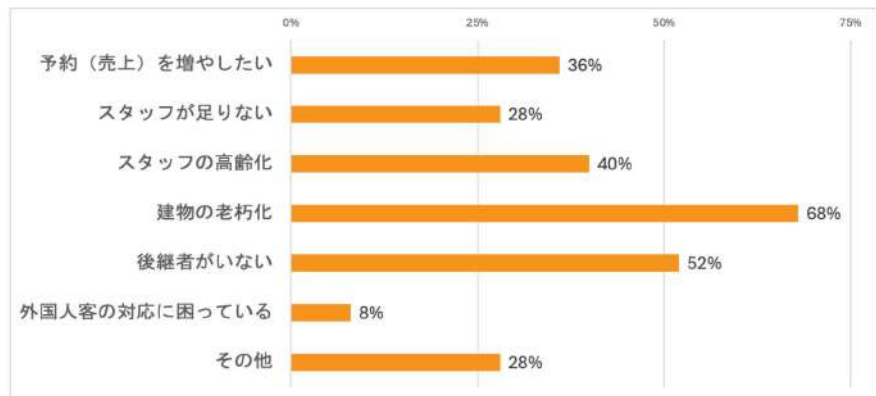
注目すべき点は以下の旅館運営者の課題について。(他はアンケート結果参照)

旅館運営者の感じている課題TOP3が「建物の老朽化」「スタッフの高齢化」「後継者問題」であった。これは、旅館業を閉めた先導師のみの活動をしている方に聞いた閉めた理由のTOP3と同じであることから、現在抱えている課題は旅館閉業に直結する、もしくは直結する課題であり、早急に対応すべき課題であると言える。

①旅館運営 (課題と今後の意向)

■ 課題TOP3

- ・ 建物の老朽化 7割
- ・ 後継者問題 5割
- ・ スタッフの高齢化 4割



②先導師のみ (旅館を閉めた理由)

■ 閉めた理由TOP3

- ・ 建物の老朽化 3割
- ・ (経営者/スタッフの)高齢化 3割
- ・ 後継者問題 3割



■ インタビュー実施概要

調査目的:宿坊運営のより深い実態把握と各旅館の施設や設備の状況把握

調査対象者:大山地域の宿坊運営事業者アンケートで「インタビュー協力可」と答えた方

対象件数:18件

インタビュー実施数:15件(3件は辞退や都合合わずで未実施)

調査手法:訪問インタビュー

実施時期:2024年10月

インタビュー項目:

①旅館運営:運営体制、顧客と課題

②先導師:先導師の活動と体験プログラム協力や旅館施設の貸出し意向など

■ インタビュー結果まとめ

●まとめ

インタビューでは個々の旅館についての課題の深さがより現実的に理解できた。

喫緊の課題を解決するためには

- ・事業として、売上の一部を施設改修などに充てられるような、持続可能な仕組みづくりの構築を目指すことも欠かせないが、並行して
- ・高齢化や後継者問題を含む人手不足の解消
- ・顧客変化への対応
- ・エリアの課題への対応

と多くの「早急に解決すべき問題」が存在している。

一方で、多くの旅館が(講社以外の)リピーター獲得をできていることから、宿泊客の満足度は高く、大山地域はリピーター獲得の素地がすでにあると言える。

新しい講社の発生など明るい兆しもあり、今後の地域活性化に向けて新たな取組のヒントとして活用できそう。

●運営課題(人手不足)

＜人手の問題＞

- ・朝早くから夜遅くまでの長時間対応が体力的に厳しい、毎日宿泊は受け入れられない
- ・広いので掃除が大変(布団の上げ下げ、広いお風呂)
- ・(予約管理を手動で行っている場合)お客様とのやりとりに時間がかかる
- ・食事にこだわりがあるが、朝早くの仕込みが体力的に厳しくなりつつある。後継者には同じことをさせられない。
- ・お客様の満足度担保のため、部屋は空いているが1日の宿泊組数を増やしたくない(人手が少なく対応が疎かになる不安、お風呂を貸切で使ってもらいたい、など)
- ・やりたいことはあるが、人手が足りない
- ・食事のバリエーションが出せないため、連泊のお客様の対応が難しい
- ・忙しい時だけお願いをするパートさんも高齢化しており、スポットバイト等で全く知らない方へのお願いも難しい

●運営の課題(顧客対応と変化)

＜旅行スタイルの変化＞

- ・団体の宿泊客が来なくなり、売上が大幅に減った
- ・まとまった人数や日程で予約が入らないと、設備費や人件費、食品ロスなどで赤字になる場合も(＝1人客の受け入れは難しい宿が多い)

＜お客さまへの不安＞

- ・予定していた到着時間から大幅に変更になると、食事やお風呂の段取りに影響が大きく負荷がかかる
- ・カスタマーハラスメントへの対応が不安
- ・ロコミに一喜一憂してしまう
- ・海外旅行客を何度か受け入れたが、ノーショー（連絡なしキャンセル）が頻発して食事もスタッフ手配など痛手を追った

●施設の課題

- ・雨漏りや屋根裏に動物が入るなどのトラブルの度、対応に追われる
- ・増改築を繰り返した建物が複雑化しているので、メンテナンス負担が大きい
- ・虫が入ってしやすい構造になっている
- ・施設の改修を行いたい資金的な要因で対応が難しい
- ・一般客の受入れのために、客室の間仕切りを改修するのにコストがかかる
- ・宿泊客がいない日も建物内に風を通すなど、管理負担が大きい
- ・建物が大きいことによる、冷暖房費や掃除などの負担
- ・日帰りお風呂を運営しようと考えたことがあるが、保健所の問題で実施できなかった
- ・母屋と宿がつながっているため、セキュリティ面でお客様の出入りに関しては把握しておきたい
- ・海外旅行客を受け入れるためには設備改修が必要なので現実的ではない（トイレの改修、ベッドマットレスの購入など）

●エリアの課題

- ・交通の発達によって街を歩く方が減り、必然的に飲食の時間もなくなるため、街にお金が落ちなくなった
- ・大山をリポートしてもらうための「何度も足を運ぶための理由」がない
- ・夜のイベントが少ないため、宿泊する理由が作りづらい
- ・基本的にみなさんバスの終点まで行かれるので、終点より下を散策される方が少ない
- ・伊勢原インターはあるが、ガソリンスタンドやコンビニがないため、お客様にご案内をしていない。
結局246まで出てしまうことになるので、厚木インターから乗ることをお勧めしていて、活用できていない。
- ・飲食店やちょっとした食料品をおいている店もないため、何かあれば車で10分ほどかかるコンビニかスーパーにいくしかなく、急用なお客様対応として連れて行くこともある。近くにお店があると助かる。

●その他

- ・リポートのお客様（講社以外一般客）を抱えている宿が多い。登山や参拝目的よりも、宿や先導師へのエンゲージメントが高く、ゆっくりしに来られる方が多いのは印象的。
- ・大山の文化や歴史をお伝えすると喜ばれるというお話も多く聞かれた。一般的な宿とは違うコミュニケーションが顧客のポジティブな体験に寄与しているのでは。
- ・減少が目立つ講社だが、休止していた講社の復活や、新たに講社が生まれたという話もあった。時代に合わせた新しい形の講が実現すれば、今後の活性化のヒントとなりうるのでは。

【事業3】モニターツアー実施

■ モニターツアー実施概要

●実施目的

- ・大山エリアでの観光コンテンツの可能性を検証する。
- ・大山エリアでの将来的な商品設計、強み等の検証、今後の創客施策に向けたフィードバック

●対象者：5名

(国内在住の他国籍の方、旅行コーディネーター、ツアーコーディネーター等)

①株式会社SYD エグゼクティブマネージャー。2025.2月より、株式会社joining job 代表取締役。ホテルパークサイド東京上野 宿泊マネージャーを経て、現職。
レンタルバイク企業と協業し、Moto Tours Japanの国内のバイクツーリズムを手掛ける。留学生サポート、外国人向けスキマバイトなどの事業にも関わっている。

②ポーランド出身。

10年以上にわたり日本で英語を教え、現在はPlanetDAOのコミュニティマネージャーを務める。観光の新しいあり方の模索として、関係者人口としてのDAOの活用等に従事しており、新たな観点からコメントをもらう。

③カリフォルニア出身。幼少期から、毎年夏を日本で母親と過ごす。大学卒業後、文化や歴史をさらに深く理解したいと考え、日本に移住。現在は帝京大学で教鞭を執る傍ら、ソフトウェアエンジニアリングを行っている。日本各地の滞在経験があり、対象エリアの文化的側面の魅力表現方法について造形がある。

④東京に拠点を置くトラベルプランナー。イスラエル出身。

9年以上日本に在住し、日本の文化を始め、建築、デザイン、芸術などを深く愛する。

顧客の関心に添って、ユニークな滞在をテilerメイドすることに特化し、日本の比類のない芸術・おもてなし・地域の魅力を存分に味わえる旅程を作ること目標としている。インスタグラムを通して、日本情報も発信しており、8,000人以上のフォロワーを抱える。

⑤東京在住、イスラエル出身。

グローバルな広報活動とマーケティングの経験が豊富。近年はアシスタント兼コンサルタントとして、Lila Almogの日本でのトラベルプランナー活動を支援している。

●実施時期：2025年1月21日（火）～22日（水）

●宿泊先：・旅館あさだ ・おおすみ山荘

●行程表案：別紙参照

●検証項目（アンケートやインタビュー項目）

- ・各コンテンツのフィードバック(5段階評価、コメント)
- ・コンテンツや食事等ツアーにかかる価格
- ・一番印象に残ったコンテンツとその理由
- ・食事量の評価
- ・大山地域の評価 など

●アンケート内容について

1, 5段階評価＋コメント

- ・1日目ランチ・能体験・宿泊場所・夕食・朝拝・朝食・散策(コマ参道、とうふ坂等)
- ・ご祈祷・浄書・水汲み・下社・大山寺・瓦投げ・交通手段について

2, 記載式

・今回の工程で一番のハイライトはどこでしたか・実際の宿泊を踏まえ、1泊2食付での適正料金はいくらだと思えるか。(宿の料金のみ)・宿泊場所について、ゲストを呼ぶにあたって懸念点はあったか。・宿泊場所の良いと思ったポイントはありますか・通訳士を同行しましたが、どう思いましたか?・今回のFAMを経て、今後のエリア旅行商品開発への関心度合いを教えてください。・エリア旅行商品開発に置いて、

どんなところが課題になると思いますか？・このエリアを好むと思われる旅行者の属性はどんな属性だと思いますか。

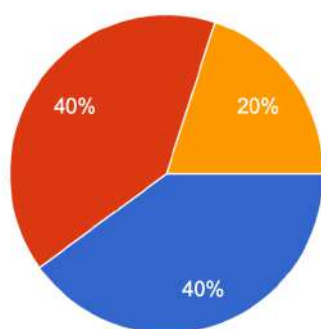
3、自由記載

●実施報告

Good	・こま参道の散策や下社でのご祈祷、朝拝など、既存コンテンツへの関心・満足度も高く、インバウンド客に対しても、現時点で提供できるコンテンツで十分に訴求できると言える。 ・新規コンテンツの種として、能舞台での能体験が非常に評判が良い。
NOT GOOD	・歴史的・文化的内容について、現地で情報を得る方法が殆ない。 ・適切に伝えるための仕掛け作りが急務。(通訳士のレベルアップ、常設歴史展示スペースの確保など)

1, 今回のツアー全体の満足度を教えてください。 How satisfied were you with this tour as a whole?

5件の回答



- とても良い / Very good
- 良い / Good
- 普通・悪くはない / Not bad
- あまり良くない / Not so good
- 悪い / Bad



■ モデルツアーの各評価

コンテンツ/エリア	自然の豊かさは非常に魅力的。散策や登山を楽しめる。滝や街道など、街全体で雰囲気があるのがよい。(昔にタイムスリップしたよう) 英語の解説が適切に行われることで魅力度が増す。 下社でのメディテーションコンテンツは魅力的(瞑想や浄書)。
食事	豆腐を中心とした会席料理はおいしく、ヘルシーで魅力的。 昼も夜も、豆腐ばかりで少し物足りなさを感じた。 ジビエなどのインパクトのある食材と組み合わせできれば、非常に面白くなると思う。
宿泊	文化財に泊まっているようでとてもおもしろかった。 宿の方のお話がとても面白く興味深かった。 (造り上仕方がないが)襖や障子のため、温度調整が難しかった。 朝焼けの雰囲気や、朝拝はとても神秘的で、宿泊したからこそその体験だった。

【事業4】ノマドワーカー調査(アンケート・インタビュー)

■ ノマドワーカー調査実施概要

●実施目的: インバウンド(デジタルノマド)誘客における必要事項を検討する。

●実施期間:

・ノマドワーカーのアンケート調査、インタビュー調査

・モニターツアー実施(2泊3日程度)

●スケジュール

<アンケート調査>

11月上旬 アンケート作成、配信用のメールマガジン作成、ターゲット選定

11月中旬 アンケート配布

11月下旬～12月 アンケート内容分析

<インタビュー調査>

1月上旬 インタビュー項目検討

1月下旬 インタビュー実施(4組)

1月下旬 インタビューまとめ

<モニターツアー>

承認が降りなかったため割愛

●実施報告

「多拠点生活」「大山」に関するアンケート調査を実施

調査期間: 2024年11月13日～2024年11月15日

対象: ADDress会員

調査方法: メールマガジンを配信

有効回答数: 160件

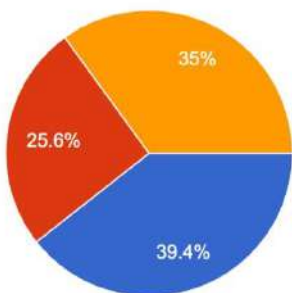
大山の認知度と滞在意向

89.4%の方が「大山に滞在してみたい」と回答。期待値の高さが伺える。大山滞在については、宿坊体験といった大山の歴史・文化への興味のほか、先導師との交流といった地域とより深く関わる体験への期待が大きい。

▶ 「大山を知らない」と回答したのは35%

神奈川県伊勢原市にある「大山」エリアをご存知ですか？

160 件の回答

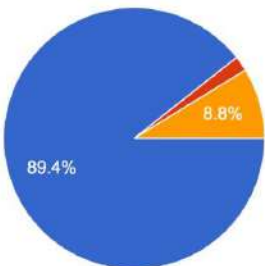


● 知っている
● 名前は聞いたことがある
● 知らない

▶ 89.4%が「大山に滞在してみたい」と回答

大山エリアの「宿坊」がADDressになれば、滞在してみたいと思いますか？

160 件の回答

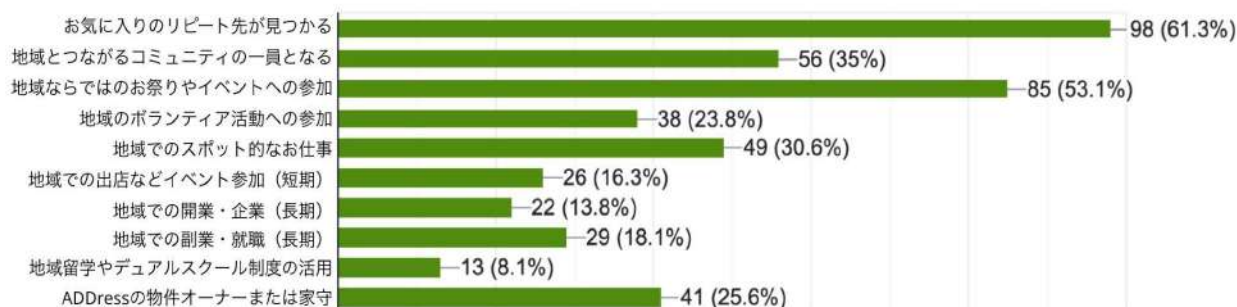


● 滞在してみたい
● 滞在したいとは思わない / 選択肢から外すと思う
● わからない

▶今後の多拠点生活に期待することは、「お気に入りのリピート先を見つけたい」ほか、「地域イベントへの参加」「地域コミュニティへの一員になる」「地域でのスポット仕事」

今後、ADDress生活で期待することを教えてください。

160 件の回答

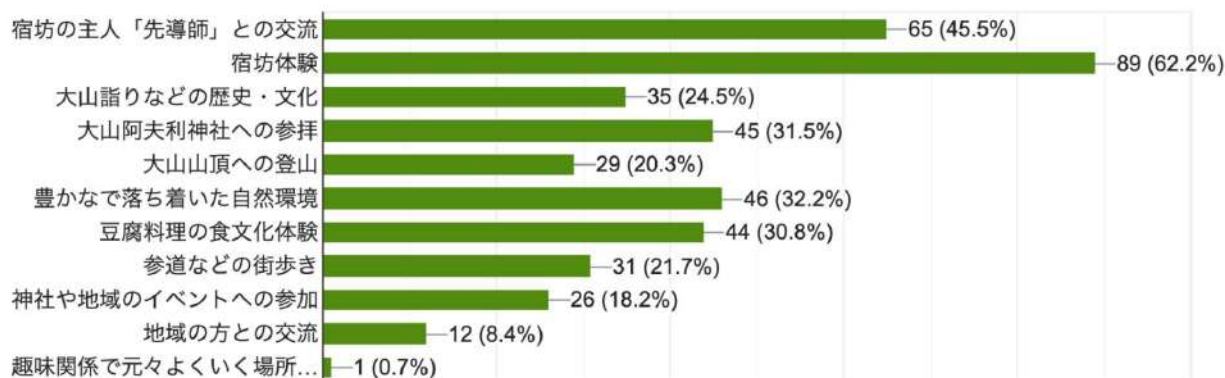


▶大山に滞在してみたいと回答した方は、

「宿坊体験」「先導師との交流」「自然環境」へ期待

どんな点に興味がありますか？3つまでお選びください。

143 件の回答



多拠点生活においては、旅行から一步踏み込んだ「地域との関係」に期待。

インタビュー結果

観光地としては高評価の一方、デジタルノマドが中長期滞在をする上では改善点も。

GOOD	・目黒さんから大山の歴史や観光スポットの話を聞いて滞在の充実度が増した。地域の方とこうやって話せるならまた来たいと思った。 ・石尊は絶景。ここを目的にまた大山を訪れたい。石尊でリモートワークができるとうい。 ・都内から近いのに、思った以上に観光気分を味わえてよかった。
NOT GOOD	・チェックインアウト前後にリモートワークできる場所がない。急なMTGに対応できない。 ・公共交通機関の場合、スーパーなどがなく、飲食店も昼のみ営業や定休日もある。かつ食の種類も少ないので長期滞在は難しそう。 ・キャリアによっては圏外。外で連絡を取れないので仕事の合間に観光ができないと感じた。

大山を訪れるデジタルノマド、関係人口を増やしていくために

滞在環境の整備	・中長期滞在する上で必要不可欠な食事だが、二次交通課題により確保が難しい現状。手段を確保することで、行動範囲が広がり、近隣エリアの観光等で滞在日数も延びる可能性がある。 ・朝食/夕食購入・食べられる店が少ないため、拡充が求められる。 ・仕事の無い、早朝or夕方以降のコンテンツが充実すると良い。
仕事環境の充実	・大山エリア全体の通信環境の不安定さは大きなネックに。 ・チェックイン前やチェックアウト後に利用できるコワーキングスペース、滞在中の宿以外で仕事ができるカフェなどのスペースがあると、デジタルノマドのライフスタイルにフィットする。 ・滞在拠点にデスクと椅子の設置。
地域とのコミュニケーション	・地域住民とのコミュニケーションが再訪の動機になりうる。地域を語る人の存在やハブとなるお店などの場づくりが必要。 ・より深く地域と関わるための、お祭りやイベントへ参加できる仕組みづくり。 ・滞在者のスキルを地域に還元するための仕組みづくり。

日常生活に近い「暮らし」がストレスなくできる環境を整え、再訪したくなる「つながり」をつくる必要がある。

実際にノマドワーカーに滞在をしていただくことで、浮き彫りになった課題、再発見された大山の魅力を改めて整理。ノマドワーカーにとって大山がより魅力的な滞在先となるよう、まずは滞在環境の拡充など、宿坊や地域との連携も含め動き方を検討中。

※次年度以降の提携予定物件について

<提携の背景・期待すること>

モニターツアー（未承認）の参加者との交流によってADDRESSとの提携に興味を持っていただけた。「自宅と宿坊が離れているため防犯面などの不安があった。施設管理の観点で滞在してもらう人が増えるのはありがたい」「宿営業より負担がかからず運営できる（中長期滞在が多いこと、個室の清掃不要等）」「閑散期の稼働対策」などの点から提携に合意。2月オープンに向けて調整中。（事業2）のアンケートでも声の大きかった、人手不足から派生する課題に対しての兆しが伺えた。

<今後の取り組み>

快適な仕事環境づくりのためのデスク・椅子の設置が確定。また、食事課題解決に向けては、電子レンジの用意、千円以下の軽食などのオプションを検討中。（事業4）の調査から見えた課題に対しても、スモールスタートでトライアルを進め、デジタルノマドがより中長期滞在しやすい環境を模索していく。

【事業5】広告宣伝

■ インバウンド施策

●施策の目的:

大山地域のインバウンド観光客の多くが「日帰りのハイキング」で終わる現状を改善し、地域の宿泊者数を増加させることで経済効果を地域に還元することを目的としたWEB記事を作成する。特に、大山の歴史や文化に興味を持つインバウンド観光客をターゲットに、大山ならではの魅力を伝える。

●掲載テーマ:

大山地域の歴史や文化を伝える記事(大山と豆腐)
大山地域での体験を含めたモデルツアーの紹介

●掲載場所:伊勢原市観光協会サイト

●掲載英語記事(3本)※別紙参照

- ・日本人の精神性と大山阿夫利エリアの魅力
- ・名産品は豆腐。
- ・大山阿夫利神社で過ごす癒しの1泊2日旅

●クリエイティブの概要:

記事内容は、以下の要素を盛り込み、大山の「文化的な体験」を前面にアピール:

- ・日本人の精神性、大山阿夫利神社の歴史や独自の文化形成(グループツアー)の紹介。
- ・インバウンドに比較的認知度の高い富士山との関係。
- ・地域名物「大山豆腐」が名産になった理由。
- ・懐石料理精進料理が楽しめる宿泊施設の紹介と実食レポート。
- ・精神性=癒しを求める大山へのモデルツアーの紹介

●実施スケジュール:

7-8月 : 媒体検討、テーマ絞り込み

10-11月 : ターゲット

確認、訴求ポイント確認

11月 : 取材撮影

12-1月 : 記事作成

1-2月 : 英語翻訳

2月下旬 : 記事掲載、効果測定

The Origins of Oyama Afuri Shrine



The history of the Oyama Afuri Shrine is very old, dating back to about 2,200 years ago. The name of the shrine, "Afuri," is said to be a metamorphic form of the Japanese word for "rainfall," and has long been worshipped as a deity to pray for rain and a bountiful harvest. Oyamatsumi no Kami, enshrined at the shrine, is a god of nature who is said to be the general ruler of the mountains.

Oyamatsumikami was worshipped as the god of water and fields, and was especially important to people engaged in agriculture.

It is known that the shrine already existed around 792 (Heian period) as a shrine that was respected by the imperial court and the warrior class. This is because the name is mentioned in an old Japanese document dated 927. It is known that the shrine existed as a state-recognized shrine from that time onward.

During this period, the shrine was also associated with Shugendo, and many ascetic practitioners gathered at Oyama.

Shugendo is a religion and practice system unique to Japan. It means to attain special power or enlightenment through mountain asceticism, and its purpose is to hone one's spiritual powers while becoming one with nature. Oyama, with its beautiful yet harsh natural environment, seems to have been the perfect place for ascetic practices.



ホーム 観光案内 イベント 新着

The charm of Oyama Afuri Shrine

HOME / Welcome to Isehara City / The charm of Oyama Afuri Shrine

The Japanese and Mt.Oyama

It takes about 1.5 hours by public transportation from Shinjuku, Tokyo. Did you know that there is a very mysterious and unique place there?
It is the Oyama Afuri Shrine, located in Isehara City, Kanagawa Prefecture.
Located halfway up the naturally rich Mt.Oyama (1,252 meters above sea level), it has long been the object of mountain worship and a renowned sacred site.
This location, so close to Tokyo, has always attracted attention in accordance with the times and has formed a truly unique culture.
Let us take this place as a theme to unravel a little of the unique story of the Japanese people's successful coexistence with the gods.



The Spirituality of the Japanese People

First, let me talk about the spirituality of the Japanese people.
Japan is said to have a very unique spirituality in the world.
At the root of Japanese spirituality is the animistic concept of eight million gods.
The word "eight million" means "uncountably many."
Japanese people not only worship nature, such as mountains, rivers, plants, and trees, but also have an underlying belief that gods reside in the tools, dolls, and buildings they usually take good care of, and even in people who have passed away. In Japan, "kami" is not a singular, absolute entity, but rather an omnipresent entity that is deeply rooted in the culture and daily life of the Japanese people and still forms the basis of their values and behavior today.

Therefore, although there are many shrines in Japan, the deities enshrined in them are diverse. Some shrines enshrine gods of nature, such as mountains, rocks, and stones, while many others enshrine gods who are believed to reside in Japanese swords, phallic hair, and other objects. Although there are many theories, it is said that there are more than 88,000 shrines throughout Japan.

We believe that there are as many gods as there are people's thoughts and feelings, and that they are always watching over us.

Incidentally, Oyama Afuri Shrine enshrines a mountain deity called Oyamatsumi no Kami. This deity is said to be the father of Kibana Kaiyahime-no-Mikoto, the deity of the World Heritage site Mt.Oyama.

【その他】視察対応

専門家視察対応 実施概要

- 日程: 10月3日～4日(1泊2日)
- 内容: 伴奏支援いただいているブラッドショー氏の大山視察
- 工程: 以下工程表参照

●地域側の目的:

- ①体験コンテンツの実施と評価フィードバック、コンテンツの磨き方など具体的な点を元に相談
- ②地域の旅館組合本部との意見交換会を実施することで地域への理解を深めてもらうとともに、参加者で改めて課題の認識を行う。

●意見交換会まとめ:

- ・各自自己紹介・大山の旅館組合の現状
- ・地方の普遍的課題と大山の文化的側面の低認知
- ・インバウンド現状について、文化的認知の取組、現状取り組んでいる教育旅行
- ・山岳信仰の衰退・後継者問題・先導師世襲制と宗教法人の新規登録の難しさ、、、など

●専門家視察を終えて

当初、モデルツアーを実施してから専門家視察を実施する予定だったが、モデルツアー前に視察に来てもらい、体験について多くのアドバイスをもらえて良かった。

また、能体験は難易度の高さと提供側の安定供給確保の問題があったが、後押しという評価をいただき、体験の商品化に向けて動くことになった。細かく説明しても理解されない、かつ前提知識の説明が必要、シンプルな説明を実現するためのヒントをいただけた。

また、組合本部との意見交換会も有意義で、事業者の人間が地域の実情をヒアリングするには聞きづらいこともあり、客観的な専門家という立場の人と話すことでスムーズに聞き出せることがいくつかあった。



■現地踏査行程表

	日時	視察先・所在地	移動手段	備考
10/3(木)	13:30～15:40	阿夫利神社事務所集合・乗換/移動		
	13:45～14:30	能体験	徒歩	能楽殿にて
	14:40～15:10	コマ工場見学・コマ回し	徒歩	こま参道内の金子屋支店にて
	15:20～16:45	町内散策	徒歩	豆腐坂、茶湯寺(涅槃寺)など
	16:45～17:00	チェックイン	徒歩	
	17:00～18:00	地域の方との意見交換会	徒歩	東学坊にて
	18:30	夕食	同施設内	東学坊にて
		解散		
10/4(金)	7:50	朝拝	宿にて	東学坊にて
	9:00:00～10:30	先導師案内体験(移動&祈祷)	徒歩	
	10:30～12:30	上社までのハイキング	徒歩	
	12:30～13:30	昼食	徒歩	お弁当配布予定
	13:30～15:00	下社までのハイキング	徒歩	
	15:00～16:00	ケーブルカー大山寺見学	ケーブルカー	
	17:00	解散		

有識者視察対応実施概要

●日程：1月8日（水）

岡委員（株式会社 Staple）による視察

●視察内容

- ・昼食：豆腐料理 ・こま参道 ・大山阿夫利神社（下社）
- ・ケーブルカー乗車 ・茶寮 石尊
- ・元宿坊「源長坊」の見学
（以下工程表参照）



●岡氏からの大山評価

- ・徒歩20分圏内で周れるのはポジティブ
 - ・立地を活かして、日帰り観光は維持＆強化する。宿泊は特別な5部屋などで高付加価値を狙うことがやりやすそう。
 - ・お店が元気、三次産業ではなく、地元で作られたものがある=ものづくりの気配がある。阿夫利神社の招き文化、江戸との密接な接点が絶大なる強み=カルチャーになっている
 - ・日帰りでもいいし、泊まるともったいいことがある期待感を作り出せたら。
 - ・デザイナーとの連携がいいのではないかな。まねきや、コマなど、デザインを表現する場があることから繋がりがあのではないかな。宿泊施設の家具などをデザイナーに頼むことで、SNS上の拡散も
 - ・きれいな水を活かした商品で、外にアピールしていけるとよい。
 - ・源長坊の活用は良い。
 - ・強い理由があれば上社まで行く
- 基本は入り口から下社までの体験世界の入り口を明確に。
- 鎌倉は選択肢が無限にあり、一生かけて全部いけないほどお店がある。ホテルは少ないけど徒歩で行ける集落が江ノ電沿いにある長谷、駅周辺、など色々あり、1回行って全部回れないので次いこう、となる。ディズニーランドと同様で、全部できなかったことが、次また訪れる理由となる。大山参りはルートが複数あったりと「次もまた行ってみよう」というコンテンツになり得る。

●専門家視察を終えて

インバウンド視点に限らず、地域を興していく話を事例を交えて聞くことができた。しかもよりリアルな設計構想案の考えも共有いただけて大変参考になった。

特に「徒歩圏内に3-4箇所立ち寄る場所ができると一気に状況が変わる」(＝人の流れができると解釈)、「どちらかというとアートよりもデザインを取り入れる方がよい、有名な建築家1人呼ぶより有名なデザイナー複数名の方が拡散力やコストメリットがある」という話が印象的だった。

立地的メリットの活かし方として、宿泊以外の日帰りでもお金を落とす仕組みがあるのが良いというアドバイスをいただき、また、他地域の経由地としてでも認知度が高まる取組に意義がある話を伺えた。

■現地踏査行程表

日時		視察先・所在地	移動手段
1/8（水）	11:00	阿夫利神社社務所集合 概要説明/移動	
	11:30～12:30	昼食・自己紹介（和仲荘）	徒歩
	12:40	出発（こま参道）	徒歩
	13:00	ケーブルカー乗る	ケーブルカー
	13:15	神社紹介	徒歩
	14:00	ケーブルカー降りる	ケーブルカー
	14:10～15:00	街並み散策 （候補地）※当日の状況により ・愛宕滝 ・良井滝 ・とうふ坂 ・こま参道 ・空き宿坊	徒歩
	15:00～16:00	ディスカッション@阿夫利神社社務所	徒歩
	16:00	解散	

【今年度の成果と次年度以降の取り組み】

①[今年度の成果]ADdRESS伊勢原A邸(宿坊 いわ江)のオープン

公開ページ: <https://address.love/homes/534>



調査事業(アンケート・インタビュー)ならびに多拠点生活者を対象とした現地視察ツアーに協力していただいた『宿坊 いわ江』さんが、伊勢原市のADdRESS1号拠点として提携してくださいました。特に現地視察を実施したことで、多拠点生活者の実態を知り、受け入れ側(＝宿坊)のサービス理解・共感を得ることができました。神奈川エリアは多拠点生活者の人気が高く、近隣にある鶴巻温泉A邸・B邸(神奈川県秦野市)、清川A邸・B邸(神奈川県清川村)とともに、ホッピング(周遊滞在先)としてこのエリアがさらに注目されることを期待しています。

株式会社アドレスでは2025年3月14日に本事業を含む今年度の公共政策(地方創生)の取り組みの一つとして、ADdRESS伊勢原A邸(宿坊 いわ江)に関するプレスリリースも配信する予定です。

次年度以降も2号、3号拠点を展開できればと考えています。

②[次年度以降の取り組み]空き旅館の賃貸もしくは取得による投資型ADdRESS物件開発

すでに廃業している空き旅館を株式会社アドレスが賃貸契約または購入(取得)し、「新しい先導師旅館」としてオープンするために、投資型クラウドファンディングを実施する計画を検討します。

本調査から「施設の老朽化」が大きな課題となっていることが明らかになったため、ある程度の初期投資をしなければ利活用が難しい状況であることが判明しました。過去に神奈川県鎌倉市(ADdRESS鎌倉B邸)でも投資型クラウドファンディングを実施した実績があります(＝以下参照)。多拠点生活者向けに限らず、インバウンドも含めた顧客開拓を目指し、また大山の特性を活かして「先導師旅館」として開発を進めていきます。



募集総額 36,550,000 円

申込総額 **36,550,000 円**

運用終了 100%

プロジェクト正式名称	ADDress 北鎌倉ファンド
募集ステータス	運用終了
投資対象	寄宿舍
想定運用期間	36ヶ月
分配	期中分配あり
配分方法 ⑦	先着
想定利回り (IRR) ⑧	年率4.5% (税引前) ※ 弊社手数料控除後
想定投資倍率 (MOIC) ⑨	1.13x (税引前) ※ 弊社手数料控除後
一口あたり出資金額	50,000円
最低出資口数	3口






<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000040352.html>

先導師旅館向けアンケート

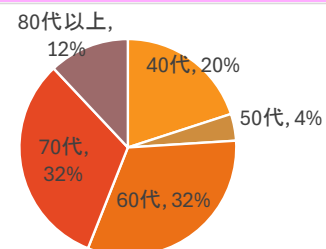
回答者数

25

代表者の年齢

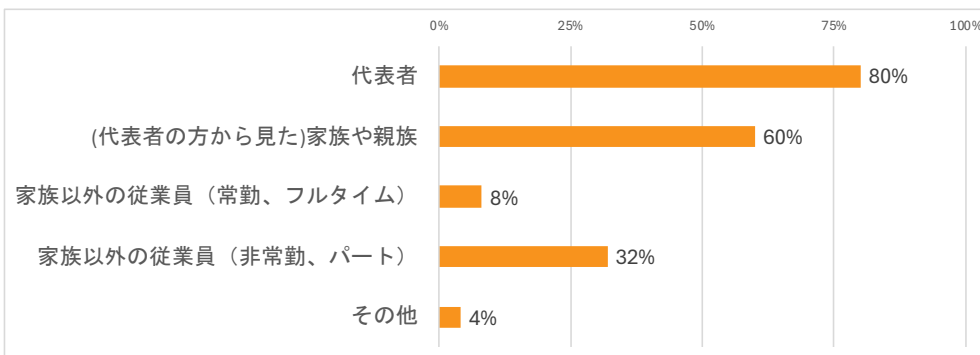
		n	%
1	30代	0	0%
2	40代	5	20%
3	50代	1	4%
4	60代	8	32%
5	70代	8	32%
6	80代以上	3	12%
合計		25	100%

■ 30代
 ■ 40代
 ■ 50代
 ■ 60代
 ■ 70代
 ■ 80代以上



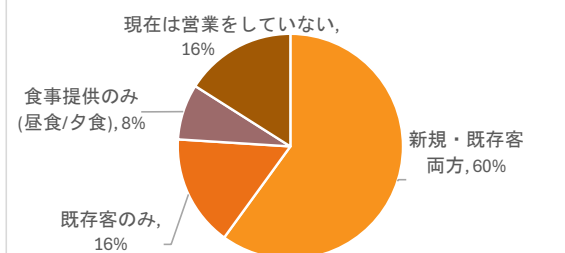
1 現在、旅館はどなたが運営に関わっていますか。複数の場合は、当てはまるすべての番号をお選びください。

		n	%
1	代表者	20	80%
2	(代表者の方から見た)家族や親族	15	60%
3	家族以外の従業員（常勤、フルタイム）	2	8%
4	家族以外の従業員（非常勤、パート）	8	32%
5	その他	1	4%
合計		25	100%



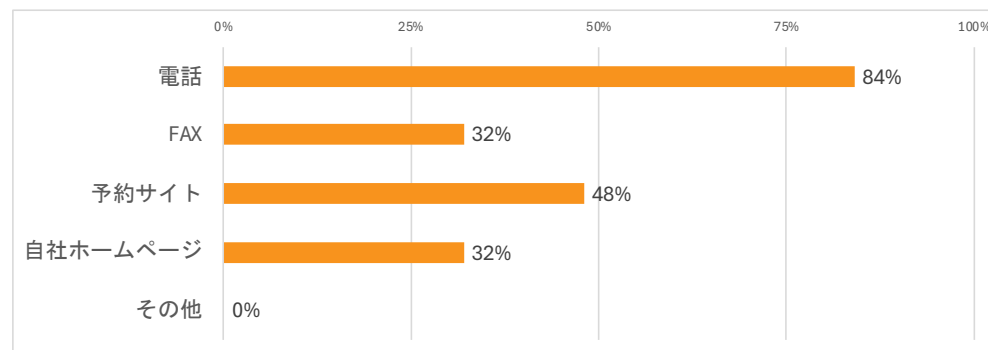
2 現在のお客様の受け入れ状況について、あてはまるものを教えてください。（ひとつだけ）

		n	%
1	新規・既存客両方	15	60%
2	既存客のみ	4	16%
3	食事提供のみ（昼食/夕食）	2	8%
4	現在は営業をしていない	4	16%
合計		25	100%



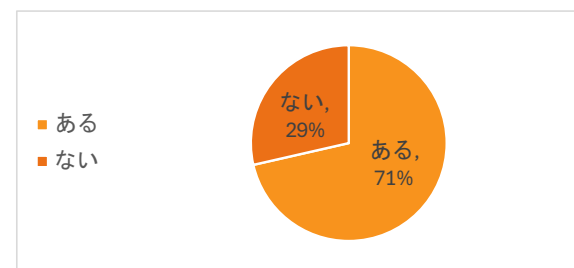
3 現在の予約受付方法を教えてください。（あてはまるものいくつかでも）

		n	%
1	電話	21	84%
2	FAX	8	32%
3	予約サイト	12	48%
4	自社ホームページ	8	32%
5	その他	0	0%
合計		25	100%



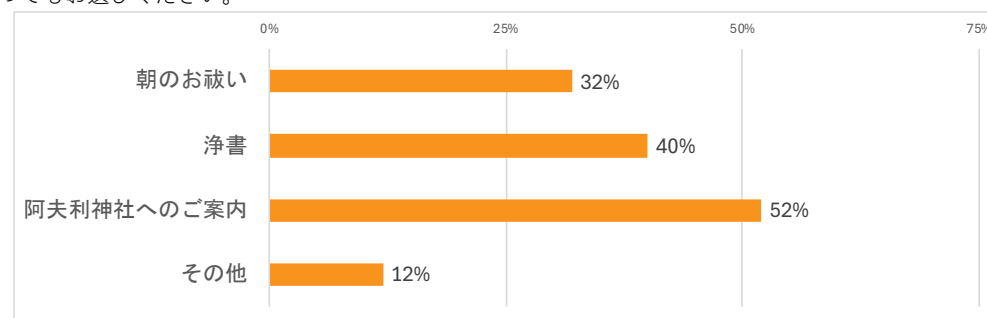
4 施設にはお客さま向けのインターネット環境（wifi）はありますか？（どちらかひとつ）

		n	%
1	ある	15	71%
2	ない	6	29%
合計		21	100%



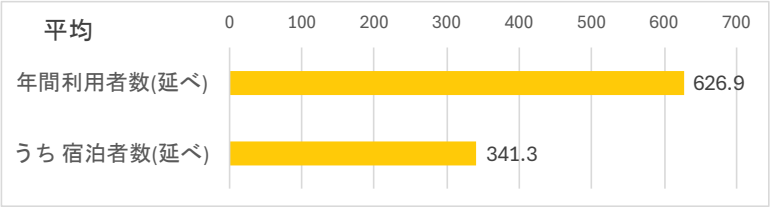
5 現在、お客さまに提供している体験などがありますか？あてはまるものいくつかでもお選びください。

		n	%
1	朝のお祓い	8	32%
2	浄書	10	40%
3	阿夫利神社へのご案内	13	52%
4	その他	3	12%
合計		15	100%



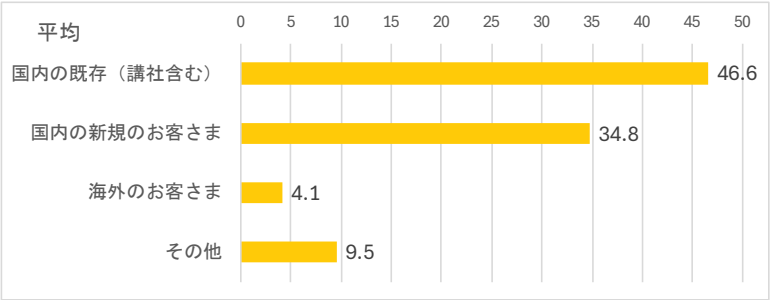
6 年間の利用者数と宿泊者数（延べ人数）は何名くらいでしょうか。

		n	平均	中央値	最低値	最高値
	年間利用者数(延べ)	17	626.9	485	0	3,000
	うち 宿泊者数(延べ)	17	341.3	80	0	2,000



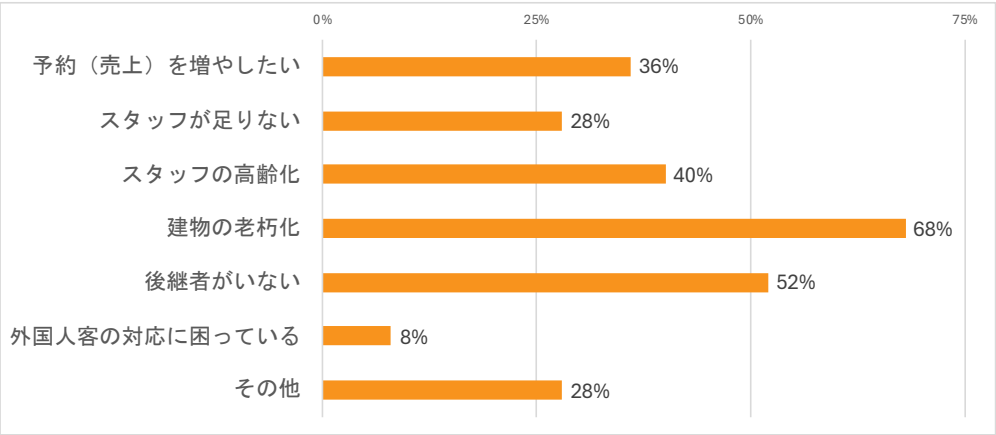
6-2 年間を通して、以下のお客さま別の割合はそれぞれのくらいのでしょうか。

		n	平均	中央値	最低値	最高値
	国内の既存（講社含む）	20	46.6	40	0	100
	国内の新規のお客さま	20	34.8	20	0	85
	海外のお客さま	20	4.1	2	0	20
	その他	20	9.5	0	0	95



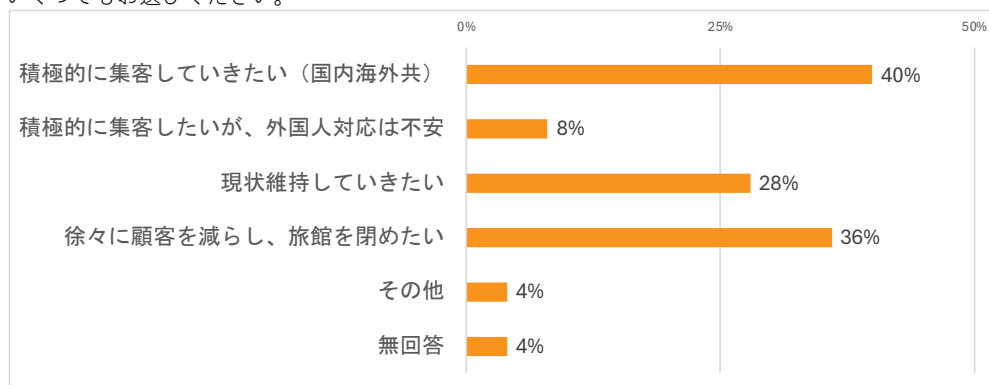
7 現在、運営もしくは家屋などについて、困っていることや課題などありましたらいくつかもお選びください。

		n	%
1	予約（売上）を増やしたい	9	36%
2	スタッフが足りない	7	28%
3	スタッフの高齢化	10	40%
4	建物の老朽化	17	68%
5	後継者がいない	13	52%
6	外国人客の対応に困っている	2	8%
7	その他	7	28%
合計		25	100%



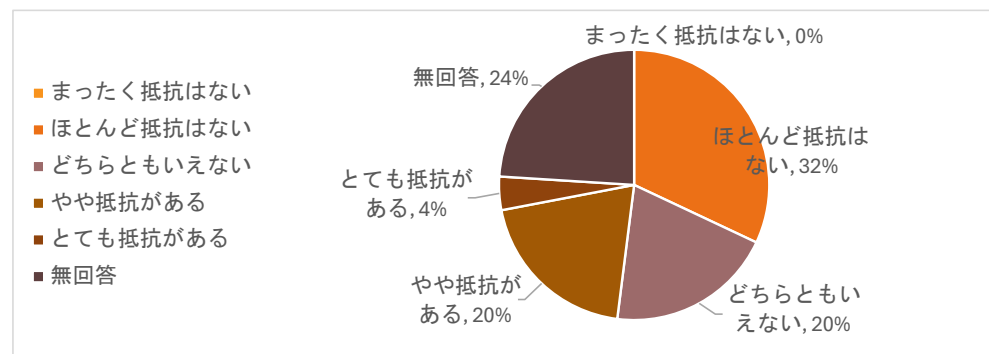
8 今後の運営について、どのようにお考えでしょうか。お気持ちに近いものをいくつかもお選びください。

		n	%
1	積極的に集客していきたい（国内海外共）	10	40%
2	積極的に集客したいが、外国人対応は不安	2	8%
3	現状維持していきたい	7	28%
4	徐々に顧客を減らし、旅館を閉めたい	9	36%
5	その他	1	4%
6	無回答	1	4%
合計		25	100%



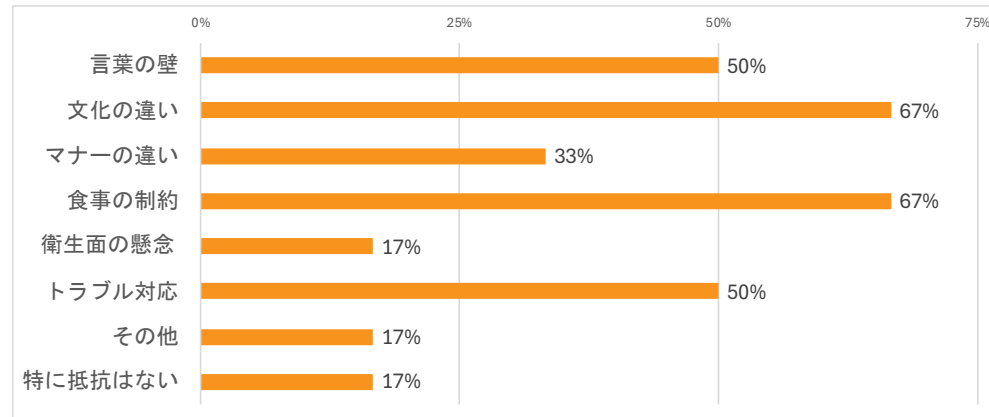
9 海外旅行客を受け入れることについてどのくらい抵抗がありますか。お気持ちに近い番号をお選びください。

		n	%
1	まったく抵抗はない	0	0%
2	ほとんど抵抗はない	8	32%
3	どちらともいえない	5	20%
4	やや抵抗がある	5	20%
5	とても抵抗がある	1	4%
6	無回答	6	24%
合計		25	100%



9-2 上記で「やや抵抗がある」「とても抵抗がある」とお答えになった方にお伺いします。具体的にどんなところに抵抗がありますか。

		n	%
1	言葉の壁	3	50%
2	文化の違い	4	67%
3	マナーの違い	2	33%
4	食事の制約	4	67%
5	衛生面の懸念	1	17%
6	トラブル対応	3	50%
7	その他	1	17%
8	特に抵抗はない	1	17%
合計		6	100%

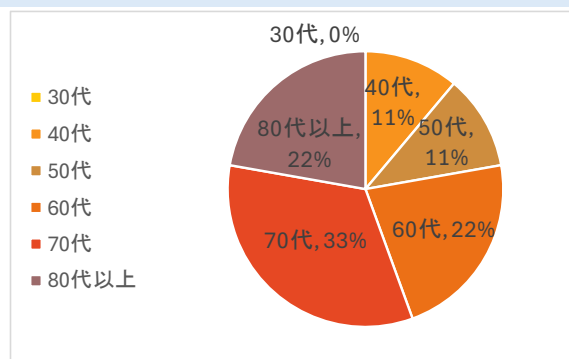


先導師向けアンケート

回答者数 9

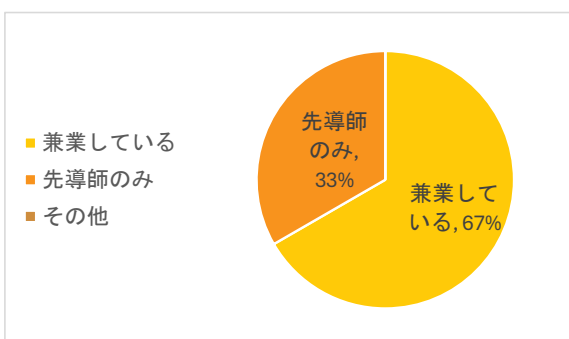
先導師

		n	%
1	30代	0	0%
2	40代	1	11%
3	50代	1	11%
4	60代	2	22%
5	70代	3	33%
6	80代以上	2	22%
合計		9	100%



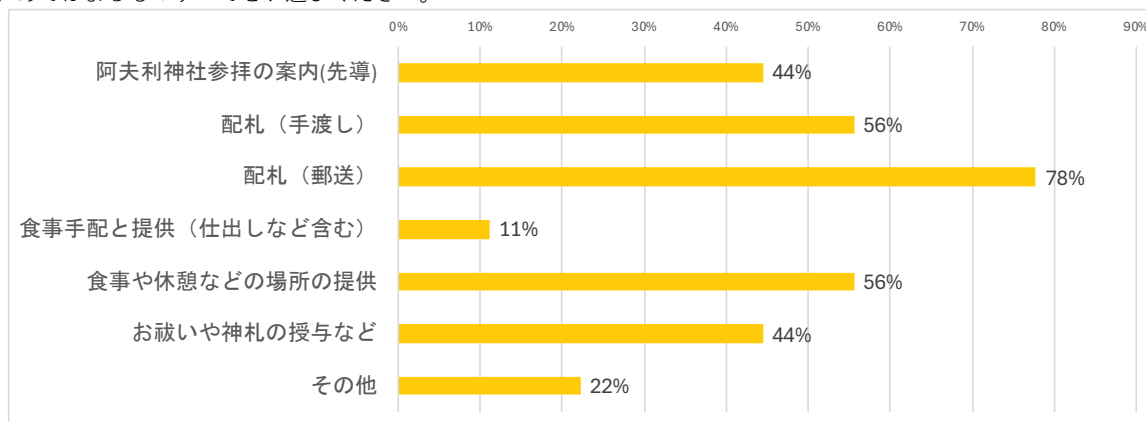
1 現在先導師以外のご職業に就いていますか。

		n	%
1	兼業している	6	67%
2	先導師のみ	3	33%
3	その他	0	0%
合計		9	100%



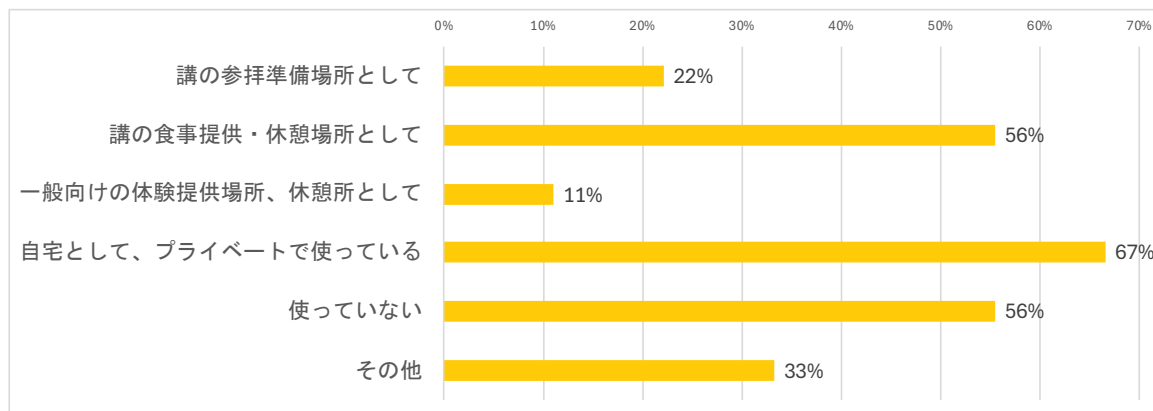
2 講の対応についてお伺いします。具体的にどんな活動をされていますか。あてはまるものすべてをお選びください。

		n	%
1	阿夫利神社参拝の案内(先導)	4	44%
2	配札（手渡し）	5	56%
3	配札（郵送）	7	78%
4	食事手配と提供（仕出しなど含む）	1	11%
5	食事や休憩などの場所の提供	5	56%
6	お祓いや神札の授与など	4	44%
7	その他	2	22%
合計		9	100%



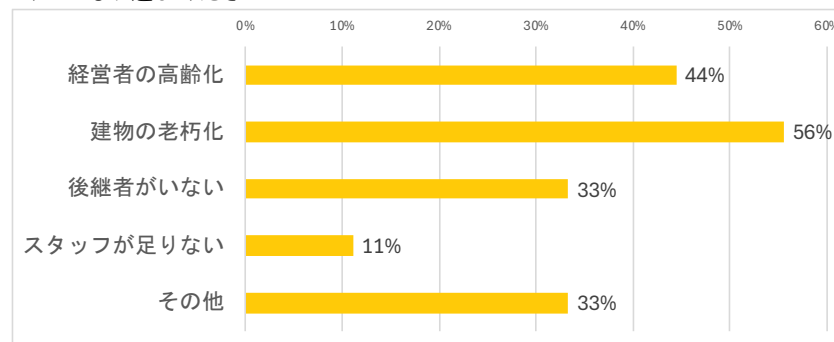
3 現在先導師旅館の施設はどのように使っていますか。

		n	%
1	講の参拝準備場所として	2	22%
2	講の食事提供・休憩場所として	5	56%
3	一般向けの体験提供場所、休憩所として	1	11%
4	自宅として、プライベートで使っている	6	67%
5	使っていない	5	56%
6	その他	3	33%
合計		9	100%



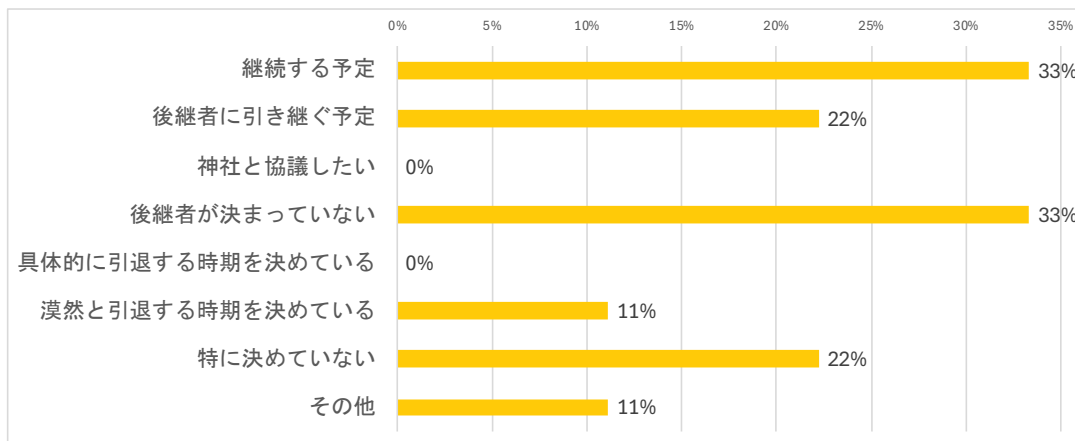
4 現在先導師として活動をする上で困っていること課題などありましたらいくつでもお選びください

		n	%
1	経営者の高齢化	4	44%
2	建物の老朽化	5	56%
3	後継者がいない	3	33%
4	スタッフが足りない	1	11%
5	その他	3	33%
合計		9	100%



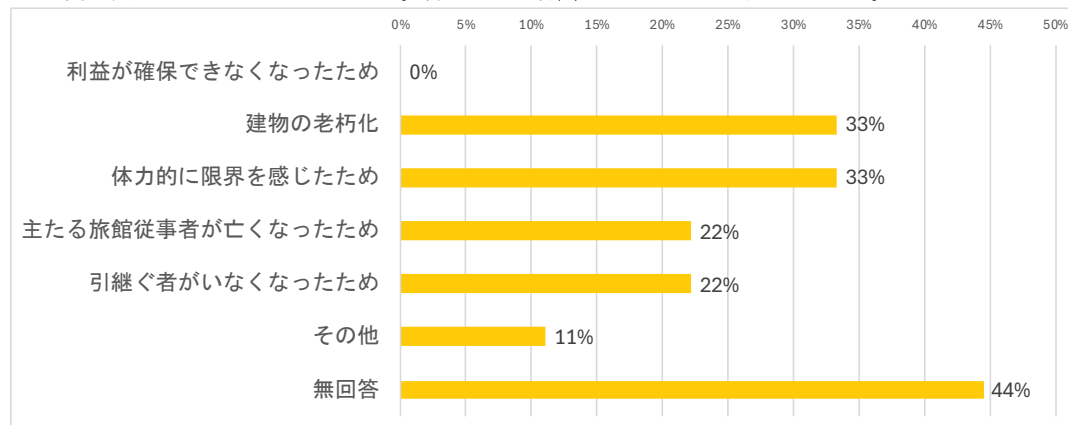
5 今後の先導師としての活動をどのようにお考えでしょうか。お気持ちに近いものをお選びください。（いくつでも）

		n	%
1	継続する予定	3	33%
2	後継者に引き継ぐ予定	2	22%
3	神社と協議したい	0	0%
4	後継者が決まっていない	3	33%
5	具体的に引退する時期を決めている	0	0%
6	漠然と引退する時期を決めている	1	11%
7	特に決めていない	2	22%
8	その他	1	11%
合計		9	100%



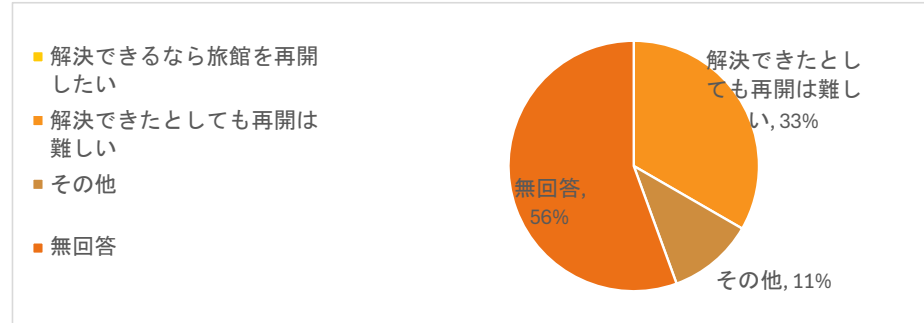
6 元々は先導師だけでなく旅館運営もなさっていたと思います。旅館を閉めた理由は次のどれにあてはまりますか。答えられる範囲でいくつでもお選びください。

		n	%
1	利益が確保できなくなったため	0	0%
2	建物の老朽化	3	33%
3	体力的に限界を感じたため	3	33%
4	主たる旅館従事者が亡くなったため	2	22%
5	引継ぐ者がいなくなったため	2	22%
6	その他	1	11%
7	無回答	4	44%
合計		9	100%



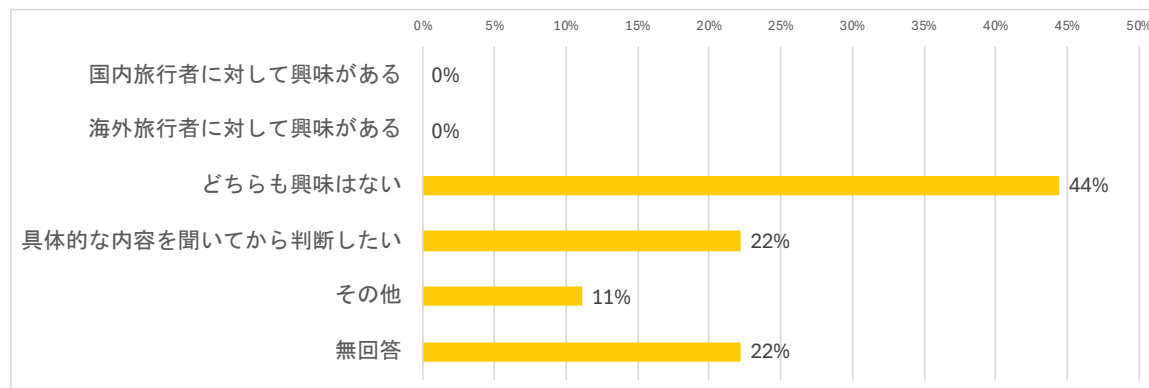
7 前の質問でお答えになった理由が解決できたら再び旅館を再開したいと思いますか。

		n	%
1	解決できるなら旅館を再開したい	0	0%
2	解決できたとしても再開は難しい	3	33%
3	その他	1	11%
4	無回答	5	56%
合計		9	100%



8 ご自身が空いている時間を使って国内旅行者や海外旅行者に対して体験プログラムを提供することに興味はありますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

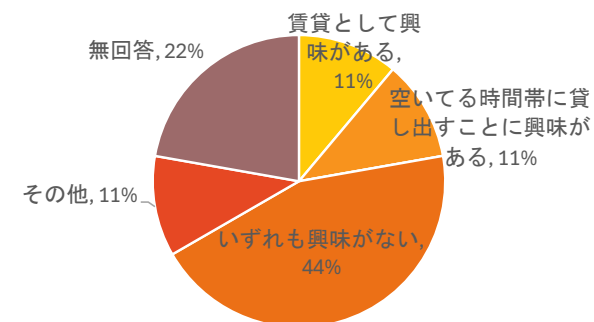
		n	%
1	国内旅行者に対して興味がある	0	0%
2	海外旅行者に対して興味がある	0	0%
3	どちらも興味はない	4	44%
4	具体的な内容を聞いてから判断したい	2	22%
5	その他	1	11%
6	無回答	2	22%
合計		9	100%



8-2 現在の旅館施設を貸し出すことに興味はありますか。

		n	%
1	賃貸として興味がある	1	11%
2	空いてる時間帯に貸し出すことに興味がある	1	11%
3	空いてる日程で貸し出すことに興味がある	0	0%
4	いずれも興味がない	4	44%
5	その他	1	11%
6	無回答	2	22%
合計		9	100%

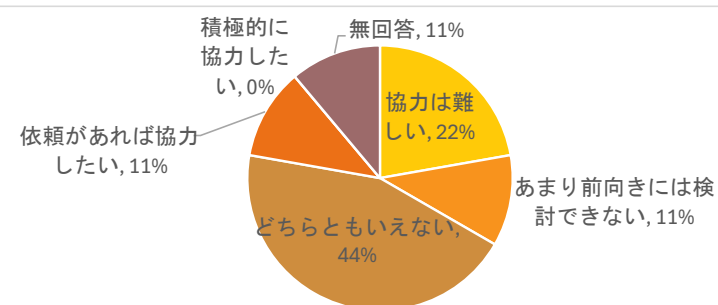
- 賃貸として興味がある
- 空いてる時間帯に貸し出すことに興味がある
- 空いてる日程で貸し出すことに興味がある
- いずれも興味がない
- その他



9 将来的に海外旅行者向けのガイドや体験の提供の可能性を検討しております。ガイド実施/体験提供などについてご協力いただけますか？

		n	%
1	協力は難しい	2	22%
2	あまり前向きには検討できない	1	11%
3	どちらともいえない	4	44%
4	依頼があれば協力したい	1	11%
5	積極的に協力したい	0	0%
6	無回答	1	11%
合計		9	100%

- 協力は難しい
- あまり前向きには検討できない
- どちらともいえない
- 依頼があれば協力したい
- 積極的に協力したい
- 無回答



9-2 海外旅行者向けのガイドや体験提供を実際に受け入れるとしたら具体的にどんなところが気になりますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

		n	%
1	言葉の壁	5	56%
2	文化の違い（宗教や生活習慣の違い）	2	22%
3	マナーの違い（日本のマナーを理解していない）	3	33%
4	食事の制約（食文化に対応できるか）	3	33%
5	衛生面の懸念（衛生管理や清掃習慣の違い）	2	22%
6	トラブル対応	2	22%
7	その他	1	11%
8	特に抵抗はない	0	0%
9	無回答	3	33%
合計		9	100%

